

# 人外探偵結社

（本日開業の段）

作 小川大二郎

- ・ 珠子(座敷童)
  - ・ 与一(キョンシー)
- 瀧野川ビルの地下に住みつく謎の女  
瀧野川ビルの地下を借りた拳道家

- ・ 瀧野川 圭輔
  - ・ 日高 あゆむ
  - ・ 小梅
  - ・ 宗方 史菜
- 瀧野川ビルのオーナー兼一階の喫茶店ホームズのマスター  
喫茶店ホームズのアルバイト  
逃げ込んでくる女(猫又)  
追いかけてくる女

◆瀧野川ビルの地下1階

与一がひとり拳法の型を行っている

与一 うん。この静けさ。空気感。悪くない。ここに決めてよかった

瀧野川が降りてくる

瀧野川 与一さん、じゃあこれ。契約書のコピーです

与一 有難うございます。

瀧野川 えーつと瀧野川ビル地下一階・賃貸料は月15万円。使用目的は拳法の道場と住居でよいですか？

与一 はい

瀧野川 流派の名前とかあるんですか？

与一 我流でいろいろやってきましたので名前はこれから決めようかと

瀧野川 そうですか。道場以外で使用する場合は一言相談してください。あ、わたしは、一階で喫茶店やっていますから

与一 わかりました。

瀧野川 お茶だけでもいつでもどうぞ。サービスしますから。あと細かい契約内容は書いてありますので読んでおいてください。

与一 はい

瀧野川 だけどいいんですか？初めて見ただけで決めちゃって

与一 ご迷惑でしたか？

瀧野川 いや、私は有難いですけども。下見なしで契約した人初めてでしたから

与一 ネットで見つけたときにピンと来たんですよ。ここだって。

瀧野川 ネットでピンと・・・そうですか

与一 何か？

瀧野川 いえ。じゃあ私店に戻りますんで。何かあったら上まで。あ、荷物はいつ運ばれます？

与一 今日決めたばかりなのでまだ何も手配が・・・決まったらお知らせします

瀧野川 わかりました。私このビルのオーナーの瀧野川です。瀧野川圭輔です。言いましたっけ？

与一 名刺頂きました  
瀧野川 あー、そうでしたね。上の喫茶店はホームズっていいですから  
与一 そうですか  
瀧野川 じゃあ、ごゆつくり。あ、置いてある物は好きに使ってください  
与一 どうも

瀧野川出て行く

与一 せわしない人だな・・・

与一、部屋を見回して満足な様子

与一 ん？畳？

部屋の隅に2畳ほどの畳スペースを見つける

与一 道場で使つていいつて事かな？これだけ？あとで聞いてみよう

部屋の隅から珠子が出てくる  
与一と目が合う。

珠子何事も無かったかのように畳の上へ行き茶を飲む

与一 え？

珠子 気にするな

与一 え？

珠子 気にするな。害はない

与一 いや・・・



珠子 久々に舞ったわ。幸甚の至りじゃ  
与一 ちよつと・・・あなた誰なんですか！  
珠子 お主の先輩と言ったところだ  
与一 はあ？  
珠子 お主より先にここに住むものじゃ  
与一 は？！ここは私が借りたんですよ。ほら契約書  
珠子 ・・・・よかつたな  
与一 よくないですよ。私より先に住んでる人がいるなんて聞いてないですよ  
珠子 聞く前に契約書を書いていたではないか  
与一 同居人がいるんですか！？  
珠子 私は気にせん  
与一 私は気になります！  
珠子 そうか。  
与一 そうかじゃないですよ・・・聞いているんですか！

日高あゆむが降りてくる

あゆむ あ、いたいた。よかつた。マスターに頼まれて、これ鍵です。  
与一 どうも。あの・・・  
あゆむ あ、わたしですか？日高あゆむっていいいます。上のホームズでバイトしてるんです  
与一 ああ・・・  
あゆむ イケメンですね。  
与一 はい？  
あゆむ わたしイケメン好きなんです  
与一 ど、どうも  
あゆむ ああ、余計なこと言っちゃった。じゃあ私はこれで。じゃあね珠ちゃん。

珠子 うむ

与一 え?! え、ちよつと待つて

あゆむ どうしました

与一 いや、あの(珠子を指さす)

あゆむ ああ珠ちゃん?

珠子 珠子と申す。覚えておけ

与一 珠子・・・

あゆむ 今自己紹介してるの?

珠子 与一と言ったか? 名字が無いのは通り名だからか? そういった武闘家もいるしな。

プロレスラーがリングネームで政治家になれる時代だ。問題は無かろうな。

先ほどの型からすると螭螂拳と○○を主体とした中国拳法か。

与一 なんて私の名前を?

珠子 契約書を見ただけじゃ

あゆむ じゃあ、仲良くやってくださいねー

与一 待つてくださいよ! あの人誰なんですか?!

あゆむ え? オナーから聞いてないんですか? 珠ちゃんの事

与一 当たり前ですよ。聞いてたら契約なんかしませんよ

あゆむ もう契約書書いちゃったんですよね?

与一 これ・・・

あゆむ あちやー。しかも3年契約。あなたよほど慌てて契約したでしょ? いつもは下見の時に見えた人には説明することにしてるもの

あゆむ え?

与一 でもまあ、しょうがない。珠ちゃんは悪い子じゃないから。

あゆむ いやいや、同居人がいるなんて明らかな契約違反ですよ。ここに書いてあるじゃないですか占有契約書って。

珠子 ・・・

珠子 家主はお主で構わんぞ

与一 そう言う事じゃないんです

あゆむ でもねー与一さん。契約書よく読んでくださいね

与一 サインする前に読みましたよ！

あゆむ じゃあ書いてあったでしょ

与一 どこに何がですか

あゆむ ほら、ここ読んで

与一 「呪いや心霊現象、妖怪といった人間以外の存在を理由とした苦情及び解約には応じられません」これが何か？

あゆむ それだから。珠ちゃん

与一 え？！

あゆむ だから、呪いや心霊現象、妖怪といった人間以外の存在が珠ちゃん

珠子 よろしくな。与一

与一 いやいやいやいや

珠子 私はこの2畳ほどがあればよい。あとは好きに使うがいい

与一 人外だなんて信じませんよ！

珠子 なるほど人外とな。そう呼ばれたことはなかったな。しかしそれをお主が言うかな、何ですか・・・

与一

そこへ小梅が飛び込んでくる

人がいる事に気付き慌てて出て行くこうとするが、外を伺い戻ってくる

小梅 突然ごめんなさい。追われてるんです。すぐ出て行きますから少しだけいさせて下さい。

与一 不審者ですか？！

小梅 そ、そうなんです

与一 安心してください。ここにいれば安全ですよ

あゆむ カッコいい

与一 あゆむさん、入り口はあそこだけですか？

あゆむ そうだね。私ちよつと上見てくるよ

与一 気を付けて！

あゆむ 大丈夫！オーナーもいるし



あゆむ出て行く

小梅 ……急にすいません

与一 いいんですよ。困ったときはお互い様です

珠子 我也今出て行けと言われて困っておるのだがなあ。お互い様にしてくれんか？

与一 困っているのは私です！

珠子 お互い様じゃろー

あゆむ、椅子を数個持つて降りてくる

あゆむ 不審者みたいな人はいなかったよ。外は全然静か

与一 そうですか。良かった。

小梅 ……

与一 恐かったですでしょう。でももう大丈夫ですよ

小梅 有難うございます

珠子 立ったままもなんじや。座るがいい

与一 ……

一同、あゆむの持つてきた椅子に座る

与一 ……

小梅 あのこと…私は与一と申します

あゆむ 小梅です

小梅 小梅ちゃん？かわいい名前

与一 有難うございます

小梅 不審者はどなんやつですか？

小梅

あの・・・

与一　すぐに思い出すのが怖いなら、まだ言わなくてもいいですよ

小梅　すいません・・・

あゆむ　警察とか呼んだ方がいいかな？！

与一　・・・そうですね。小梅さんがもう少し落ち着いたら

珠子　それはせん方が良いと思うがの

与一　何ですか

珠子　誰のためにもならん

与一　は？ためにならないわけじゃないでしょ。不審者を一刻も早く捕まえてもらわないと

珠子　はて、不審者とはどんなもの事を言うのだ？

与一　そりゃあ・・・悪い・・・男とか・・・

珠子　そもそも、この娘は不審者などと言も申しておらん

与一　え？

珠子　不審者と言ったのは与一じゃ。小梅とやらは追われていると言っただけじゃ

あゆむ　そういえば・・・

珠子　安易に放った単語による思い込みは時に判断を鈍らせる。

小梅　あの・・・

珠子　追っているのは女。年は20代から30代といったところか？

あゆむ　どうして？

珠子　ここに入ってきたときに息切れをしておらんかった。お互い歩いていたらならば駆け出すはず。この近くで偶然遭遇してここに飛

び込んできたいうところか。つまり小梅とやらがどこかの建物に入ったら偶然相手が座っておったと。そこから素知らぬ顔で

立ち去ったのじゃ。そんな環境はほぼ飲食店であろう。この付近の飲食店はホームズだけじゃ。そしてその追手は間もなくここに

あゆむ　やって来る

珠子　じゃあ鍵閉めないと

あゆむ　もう遅い

珠子　瀧野川が入ってくる

瀧野川  
あゆむ  
ええ、あゆむちゃん。ここに女の子入ってたよね  
え？あ、はい  
宗方さんが用事があるらしいんだけど  
え？宗方さん？

宗方史菜が入ってくる

宗方  
あゆむ  
やっぱり。あなたね、この泥棒猫、人殺し  
え、小梅ちゃんを追ってたのって・・・珠ちゃんなんでわかったの？  
地獄耳とは我のための言葉。この建物内の会話は全て聞こえておるので  
うまく変装してみたんだけど私の目は誤魔化せないわ。あなた小梅でしょ。この化け猫！？  
史菜さん・・・違うんです。誤解です  
何も違わないわ。私は騙されない  
拳法使いの出番はなさそうじゃな  
その様で・・・  
母を殺したあなたを。  
宗方  
珠子  
与一  
宗方  
珠子  
おや？

宗方、懐から刃物を出す

宗方  
珠子  
宗方  
瀧野川  
宗方  
与一  
私の手で殺す  
拳法使いの出番だぞ  
その様で・・・  
ちよっと、宗方さん  
止めないでマスター  
お知り合いなんですか？

あゆむ 常連さん  
与一 少し落ち着きましよう  
宗方 誰？何も知らない人はどいて。他人を巻き込むつもりは無いの  
与一 物騒な常連さんですね  
瀧野川 普段はこんな事ないんだよ  
宗方 どいてって言うてるでしょ！

宗方、刃物を出鱈目に振り回す

上手い事避ける与一。そして宗方の手を取る

宗方 離して！

与一 どんな事情でも人殺しはいけません！

宗方 そうはならないんだってば。小梅、前に出てきなさい！

瀧野川 宗方さん落ち着いて。そんな殺し方は美しくない。  
与一 は？

瀧野川 殺すならちゃんとトリックを使わないと

与一 不謹慎なこと言わないでください

瀧野川 不謹慎かな？

与一 当たり前です

宗方 ……そうですね……私としたことが……ただ刃物で刺すだけなんて。マスターの言う通り美しくないわね  
与一 言う事聞くの？！

宗方 喫茶ホームズは推理小説好きが自分の考えたトリックを自慢し合う店なの。かくいう私もその一人。

あゆむ お騒がせしてご免なさい

瀧野川 わかってくれればいいんですよ

宗方 でもね、私は小梅を許すわけにはいかないの。

与一 さつき母親を殺されたとかって……

宗方 はい……

小梅 違います！私は……

嘘をつかないで！母の命を吸って、あなたは長年一緒に暮らした私たち家族の前から姿を消したの

小梅 ……

吸うって……

瀧野川 その証拠に……

小梅が宗方の前に出てくる

小梅 史菜さん。

宗方 気やすく呼ばないで

小梅 さよならです

部屋の電気が明滅して停電

あゆむ うそ？停電？！

瀧野川 そんなことないよ。太陽光発電だよ？！

珠子 回路がショートすれば関係あるまい

与一 懐中電灯とか無いですか

あゆむ あ、携帯！

与一 それ。誰か持ってませんか？

瀧野川 わたし店においてきちゃった

あゆむ 私もだ

瀧野川 宗方さん、小梅ちゃん、携帯ありませんかー？

瀧野川 宗方さん？いますー？

灯りが付く

あゆみ 点いたー。よかつたー・・・どうしたの皆？

部屋の中央には死に絶える宗方と傍らで手を添える小梅が

瀧野川 そんな・・・

与一 きゃーーーーーー！！

あゆみ ・・・・その悲鳴は私の役目じゃないかな？

与一 すいません。こういうの苦手で

あゆみ ちよつと、宗方さん？！宗方さん？！

与一 き、救急車！

あゆみ もうだめだと思っ

与一 え？！っていうと

あゆみ うん。死んでる・・・

与一 つ！きゃーーーー！！

あゆみ うるさい。小梅ちゃん、何があつたの？

小梅 ・・・・

瀧野川 これは・・・事件だね

与一 見ればわかるでしょ

瀧野川 しかも密室だね

あゆみ え？

瀧野川 だって僕さつき入り口の鍵閉めたから

与一 だから何ですか

瀧野川 犯人はこの中にいるんだよ！いいかい、停電はほんの数秒だ。その間に外からカギを開けて

暗闇の中で彼女を殺害して出て行くなんてことは不可能だ。という事で、彼女を殺害できたのはここにいる5人だけなんだ！

あゆみ いや、それならばどう考えたって・・・

小梅に視線が集まる

あゆむ

小梅ちゃん、何をしたの？

黙って首を横に振る小梅

与一 あなたが殺したんですか？

小梅 ……

あゆむ まあ、この状況じゃ間違いないね。警察呼ばなきゃ……

瀧野川 えー、それじゃあつまんないよ。もつとさー、意外性が欲しいんだよ

あゆむ やめれ

瀧野川 じゃあ、与一さん犯人ってことにしよう

与一 何で？！

瀧野川 意外性抜群じゃん！今日部屋を借りた人が会って5分で常連さん殺しちゃうなんて、裏に因縁とかありそうじゃないの

与一 初対面です！

瀧野川 ほんとはさ、お母さんとも娘とも男女の関係だったとかにしない？

与一 発想が怖えよー

あゆむ マスターはほつといても、宗方さんが亡くなったのは事実。小梅ちゃんどうやって？

与一 遺体には外傷はなさそうだし……

あゆむ 首を絞めて窒息させるには時間が短すぎるし

与一 あ、毒！

珠子 暗闇の中で飲ませるか？

与一 そうか……

瀧野川 せめてさ、何があつたか説明させてから警察呼ぼうよ

与一 本人に聞けば早いでしょ

小梅 わたしは何もしていません

あゆむ でも小梅ちゃん、あなた停電の直前にサヨナラって言ったでしょ。灯りが付いた時に宗方さんに触れていたし、この状況じゃあなたが何かしたとしか考えられないわよ

小梅　そうですね・・・それならば別にそれでも構いません  
与一　やっぱりあなたなんですね  
小梅　急に飛び込んできた私に優しくしてくださって有難うございました。お騒がせしました

小梅、宗方にふっと息を吹きかける

あゆむ　何があったのか、何をしたのか、話してちょうだい

小梅、皆に微笑みかけるとそのまま倒れる

あゆむ　え？小梅ちゃん？！  
与一　そんな？！

与一が小梅に駆け寄る

与一　小梅さん、どうしました？！小梅さん！  
あゆみ　どうして・・・  
与一　救急車を！  
珠子　無駄じゃ  
与一　何でそんなことわかるんですか  
珠子　そのかわりに、ほれ

宗方がむつくりと起き上がる

あゆむ　へ・・・  
宗方　・・・  
一同　・・・



宗方 あの、わたしはどうしたんでしょうか

瀧野川 きゃーーーーー

あゆむ だから・・・私の役目じゃない？

宗方 わたし、寝てたんですか？

与一が宗方に駆け寄る

与一 寝てたんじゃありませんよ。あなた死んでたんです

宗方 死んでた？私が？

与一 一体どうやって・・・

与一、宗方の体を色々と調べる

宗方 ちよつとやめてください

与一 あ、ああ、失礼、つい。

宗方 この通り私は死んでいません。生きています

与一 いえ、あなたは殺されたんですよ。この小梅さんに

宗方 小梅に？！

あゆむ あー、小梅ちゃんほったらかし！

与一 そうだ！

あゆむと与一が小梅に駆け寄る

あゆむ 死んでる・・・悲鳴は上げないように

与一 何で・・・何で?! さっきまでは宗方さんが死んでて、犯人は小梅さんだったのに・・・

いまは小梅さんが死んで宗方さんが生き返ってる

宗方 私、信じられないんですけど・・・皆でからかっています？

あゆむ いえ。少しの間だけ間違はなく死んでました。みんな見てました・・・  
宗方 皆で小梅を庇う為に芝居してるんですか？小梅が死んでるのだって嘘でしょ？小梅、起きなさい！  
与一 ご自身で確かめてみるという

宗方、小梅に近寄って確かめる。確かに死んでるようだ

宗方 これだってトリックなんじゃないの。だって小梅は・・・

瀧野川 トリック？！そうなの？！いいね。トリック！！

あゆむ ときめかない！何が起きたのかはわからないけども、人が死んでるの。もうここからは警察の仕事よ

宗方 え？警察？

あゆむ そうよ。問題ありますか？

宗方 いや・・・でも・・・

あゆむ 救急車も呼んで宗方さんの体も見てもらわないと。

瀧野川 ええー、呼ぶのー？警察

あゆむ 当たり前ですよ

瀧野川 いろいろ調べられるのやだなあ

あゆむ 人が死んでるんです！笑い話じゃ済まないんですから！

珠子 あゆむ。警察はやめておけ

あゆむ 珠ちゃんまでそんなこと言うの？あ、でも珠ちゃんは警察には見えないからめんどくさいね

珠子 私から言わせれば奴らはただの無能集団じゃ。それに、この中でお主以外全員警察を呼んでほしくないようだ。

あゆむ え？！そうなの？宗方さんも？！

宗方 あ・・・あの・・・

あゆむ マスターはどうでもいいけど、与一さんも？！

与一 あのー・・・まあ、できれば会いたくないとか・・・

あゆむ 何で？・・・何で？！宗方さん？お母さんを殺した犯人なんですよ？！

宗方 えええ。そうなんです・・・

瀧野川 どうやらそこに、警察を呼ぶのをためらう理由がありそうだね

あゆむ

そうなの？

宗方

・・・言っても信じてもらえないと思います

瀧野川

私には見当もつかない。珠ちゃん、もう全部わかっちゃってる？

珠子

わかるも何もそのまんまじゃ

瀧野川

え？じゃあ、死人が入れ替わったトリックもわかっちゃってるの

珠子

・・・トリックではない

瀧野川

教えてよ！

珠子

・・・つまらん。まったくもってつまらん茶番じゃ

与一

茶番で・・・

珠子

よいか。ここまでサスペンスと思つて観ている者、勘違いをするなよ。この話に痛快なトリックなどは微塵も出て来ないぞ

与一

誰に話しているんですか？

珠子

30分ではそんな物は無理ぞ。この話は・・・ファンタジーじゃ！

与一

た・・・珠子さん？

珠子

もつと難解な謎を期待するのであれば、今後催される本編に期待せよ。では、話を元に戻すとしてよう

あゆむ

珠ちゃん、壁と話すことがあるの

与一

はあ・・・

珠子

このつまらん滑稽劇は、そこに死んでおる小梅の正体を知れば馬鹿でも理解できる

あゆむ

正体つて・・・どゆこと？

珠子

そのまんまの意味じゃ。その女(宗方)が既に申しておるぞ

あゆむ

宗方さんが？！何て？

珠子

よく思い出してみよ。その者が発した言葉の違和感の数々を

瀧野川

違和感？あつたつけ？

与一

んー・・・そういうえば、命を吸うとかつて言つてましたよね。殺したのに首を絞めるとか刺すとかつて言わなかった

珠子

そう。まず一つ目。吸い殺す殺人など聞いたことが無い。言葉の例えかとも考えられるが、上手くも何ともない表現じゃ

瀧野川

あと、彼女を刺そうとしたときに、そうはならないって言つたね。人殺しにはならないって事だよ

珠子

二つ目。刃物で母親の仇を討とうとしているのに人殺しにはならないとは如何なものか

瀧野川

殺すつもりなかつたのかな？

珠子

瀧野川

珠子

あゆむ

珠子

与一

珠子

与一

珠子

与一

珠子

あゆむ

珠子

あゆむ

瀧野川

あゆむ

珠子

あゆむ

珠子

あゆむ

珠子

瀧野川

あゆむ

宗方

あゆむ

死なないうよう手加減ができるほど、刃物で人を傷つけるのに長けた人間に見えるか？

じゃあさ、彼女は人じゃやない。だから殺しても人殺しじゃやないとかね

ほう——

そんなわけないでしょー。あ、でも変装したとかって言ってますよね？化粧も濃くないし、髪を染めたり切った様子もないみたいですけども・・・

三つ目、長年一緒に暮らしたと言っておきながら、会っても本人かどうかを確かめるような口ぶり。これが変装？

そして、一緒に暮らしておきながら家族や血族でないような違和感——

で、それってつまりどういうことなんです？

既に答えは出ておるではないか

わかりませんよ

お前と同じじゃ

わたしと？！何がです？

だからすでに申ししているではないか

もう、もったいぶらないで教えてよ珠ちゃん！

もったいぶってなどおらぬ。瀧野川が今ほど言ったではないか。そして、もつと前。この女は入ってきたときに何と申しした？

マスターなんて言った？

人じゃないから殺しても殺人じゃやないとかつて・・・

そこじゃないでしょ

なぜそこではないと？

だって、人間じゃやないってさ、有り得ないでしょ

お主と今話しているのは人間か？

あ・・・珠ちゃん！？

我と常日頃接している者とは思えんの

じゃあ、彼女は人間じゃやないの？！

宗方さん！そうなの？

え・・・ええ・・・

何？小梅ちゃんは何なの？

珠子 だから聞かずとも宗方とやらはすでに申しておる  
あゆむ 何て言ったの！

宗方 えつと・

珠子 思い出せ。一番初め。入ってきたときに宗方は何と申した？

与一 確か・・・泥棒猫とか、殺人猫とか、化け猫って・・・あ・・・猫！？

珠子 そう。小梅は猫じや。それも人の姿になれる猫

あゆむ 化け猫？！

珠子 正しく言うならば「猫又」といったところか

あゆむ え？嘘でしょ。小梅ちゃんが？！

珠子 起こったことから推測すれば、まず間違いあるまい

あゆむ 宗方さん？！

宗方 ・・・そうです。確かに小梅はうちで飼っていた猫です

瀧野川 何て事だ・・・この子妖怪なの・・・

珠子 人間は総じてそう呼ぶのう。しかし飼い主もこの姿、見たことはなかったはずじゃが

宗方 ・・・

珠子 お主、見たのか？人間になっっている姿を

宗方 見ましたよ。母を手にかけていたこの姿を

珠子 うーむ・・・なるほどの・・・

宗方 二か月前、夜中に妙な気配を感じて母の部屋を開けたら、見慣れない女の姿、横には母が倒れていた。

珠子 女は猫に形を変えて飛び出していった。あれは間違いなく小梅だった・・・あの夜見たのがこの姿。

宗方 その日以来、小梅はうちから姿を消した。一番可愛がってたお母さんの命を吸って、小梅は妖怪になったの

珠子 なるほどの・・・

宗方 家族のだれもこの話を信じてくれなかったけど、やっぱり私は間違ってたなかつた

珠子 なるほどの・・・

宗方 私の手で、この化け物を殺してやりたかった！

珠子 なるほどの・・・

与一 なるほどなるほどって、全部わかってるんじゃないんですか

珠子 宗方とやら、喜べ。仇はお主が討ったようなものじゃ  
宗方 あなた、さつきから何なんですか  
珠子 我が見えるのは人外と共に過ごした期間があるからか・・・我を見ると幸せになるらしい。歓喜して良いぞ。  
宗方 は？  
珠子 少なくとも思いは遂げたの。小梅の命はお主が奪ったのじゃ  
宗方 どういう事です？この子が勝手に死んだだけじゃないですか  
珠子 ただの猫が猫又になるには何パターンかあるが、大きく分けると二つ。とことん人間を呪い、その呪いが頂点に達したとき。  
宗方 もう一つは人間からこの上ない愛情をもらい、恩返しを考えたとき。小梅はどちらかな？  
珠子 恨まれることは絶対じゃないと思います  
宗方 では後者か。そうなると思返しをしたいと思い人型となったと。  
宗方 でも小梅は裏切ったのよ！  
珠子 まあ、聞け。人間は化け猫と猫又を呼び分けるときがある。化け猫は人を殺し魂を喰らい生き長らえ、  
宗方 猫又は人に命を吹き込むという。我は小梅の事を猫又と呼んだのじゃ  
珠子 ちがう！化け猫じゃないの！  
宗方 猫又は尻尾の数だけ生き返る事が出来るという。人を喰らえば尻尾の数が増え、寿命が来ても再生できる。  
珠子 逆に命を渡せば尻尾の数は減っていく。小梅は猫又になりたてか？尻尾は一つだけのようじゃ  
宗方 ・・・・何が言いたいの？  
珠子 何故、化け猫の小梅は死んでおるのじゃ？  
宗方 ・・・・どういう事よ  
珠子 お前の母の命を喰らったのなら、再生するはずよの？  
宗方 そんなの・・・知らないわよ  
珠子 話は少し逸れるが、お主宗方の腰のそれ、バッテリーじゃな  
宗方 か・・・関係ないでしょ  
瀧野川 スマホ？  
珠子 には大きすぎる。恐らくは補助人工心臓。  
与一 ペースメーカーですか？  
珠子 それでは賄いきれず、移植待ちの者が装着する機械じゃ。

宗方 だから何なんですか

珠子 ん、何と言ったかの。確か・・・突発性拡張型心筋症か

宗方 え・・・なんで

珠子 一個目で当たったか。ご都合主義じゃな

あゆむ 何て言ったの？

珠子 病名はどうでもいい。要は心の臓の難病じゃ。突然死することもある

あゆむ そうなんだ・・・

珠子 そして、この病には遺伝的要素がわずかばかりある。宗方とやら、お主の母の死因はこの病に起因するのではないか？

瀧野川 確かお葬式出たときに心不全だって聞いたような・・・

珠子 ふむ。移植ドナーも見つからず体力だけが落ちて行っただけか。年齢的なものもあつたじやろ

宗方 違う！お母さんは小梅が殺したのよ！

珠子 話を戻そう。

与一 振り回しますね

珠子 もしも、小梅がお主の母親の死に目に立ち会っていて、母が発作を起こしたまさにその瞬間、猫又へと変化したとする。

与一 既に死んでおる故、魂は喰らえぬ。だとすればそこに恨みなどというものは欠片も存在せんはずじゃ。あるのは・・・

与一 恩返しへの気持ち

珠子 それ以外は無かるう

宗方 じゃあ、どうして小梅はお母さんを救ってくれなかつたのよ！

宗方 はて・・・言ってしまうって良いものか

宗方 ・・・・教えてよ

珠子 猫又のルールにはこんなものがあると聞いたことがある。人型を飼い主見られたときには、いかなる場合においても速やかにその前から姿を消すこと。さもなければ飼い主を喰い殺すことになる。

瀧野川 ってことは・・・

珠子 小梅が姿を消したのは、お主に人型を見られたからじゃな。お主を喰い殺さぬため、その場を去ったのじゃ

あゆむ そんな・・・

珠子 お主が小梅を見なければ、今頃母親は生きていたかもしれないな。んー、そう考えると母がこの世を去った原因の一つとなるな

あゆむ 珠ちゃん、そんな言い方・・・

珠子 死んだことに変わりはない。原因など些細な事じゃ。憎い猫一匹が目の前から消えたのだから良しとせねばの  
宗方 憎いだなんて・・・  
珠子 憎かろう？ いるかいいないかわからぬ者への仇討ちのために刃物まで持ち歩いておったのじゃ。念願成就じゃな  
宗方 私がやったわけじゃ・・・  
珠子 言っておるではないか。死んだという事に変わりはない。原因や過程は必要ないのじゃろう？  
宗方 必要ないわけじゃ・・・  
珠子 必要なのか？ では何故、母親のそばにいた小梅を見ただけで、小梅が殺したと決めつけたのじゃ？  
宗方 そしてそんなお主に朗報じゃ。歡喜せよ。小梅はお主がきちんと殺したのだ。  
珠子 私は何も・・・  
宗方 ほれ、狂喜乱舞したらよい。こうやって・・・  
珠子 やめて。私は何もしていない！  
宗方 しているとも。お主はきちんと母親と同じ発作を起こして死んだではないか  
珠子 え・・・  
宗方 母親と同じ発作じゃ。気付かなかったか？  
珠子 小梅を見て興奮したのじゃろう。高まった心臓の鼓動が我にまで聞こえたぞ  
宗方 聞こえた？  
瀧野川 まさか  
珠子 それはもちろん小梅にもわかったはず。更に、小梅にはその鼓動の中に母の死の直前のものと同じ音を感じ取った。  
与一 つまり小梅はお主にこれから発作が起こるといことが分かったのじゃ・・・小梅のサヨナラとはそういう意味じゃ  
珠子 え・・・それって・・・  
宗方 これから死にゆくお主にサヨナラと言ったのか、自分の命と引き換えに生き返るお主に別れを告げたのか・・・  
宗方 我の知るところでない。  
珠子 小梅・・・  
宗方 知るのはお主だけじゃ。母の代わりに、お主にたった一つの命を差し出したのじゃ。それでもこの猫が憎いか？  
珠子 小梅・・・小梅・・・  
珠子 人型になってまでこの辺りをうろついておったのじゃ。何が心残りだったのか・・・



宗方  
小梅・・・そうなの・・・小梅・・・わかつてあげられなくてごめんね・・・

小梅のそばで泣き崩れる宗方

あゆむ  
・・・何か、悔しい

何で？

こんな悲しいのに、誰も悪くないんだもの・・・

瀧野川  
んー・・・あー・・・そうか・・・

与一  
しいて言うなら、病気でしようか。病気さえなければ

珠子  
原因はよろずあれど我々と違い人間は必ず死ぬ。逃れられぬのじゃ

与一  
そうですね・・・生きている間に何が残せるか・・・

珠子  
・・・は？

与一  
・・・はい？

珠子  
お前が――

あゆむ  
あ、ねえ、ちよつと！

瀧野川  
うわ！

小梅が立ち上がり、宗方の横を通り過ぎる

宗方は気付いていない

あゆむ  
小梅ちゃん・・・生き返ったの？！

小梅  
・・・史菜さんには見えていません。突然押しかけてお騒がせしました

珠子  
このまま逝くのか？

小梅  
はい。お別れも伝えられましたし、悔いはありません

珠子  
そうか

瀧野川  
ねえ、何で宗方さんには見えてないの？

珠子  
既に魂じゃからな。いまの宗方の手に見えているのは猫の亡骸じゃ

小梅 本当はこうやって幻を見せて姿を隠すんですけども・・・皆さん私が見えるんですね  
あゆむ ほんただ。何でだろ？

珠子 普段から妖気に触れておるから耐性が付いておるのじゃろ

瀧野川 珠ちゃんのせいかな

珠子 そうなるの

小梅 そろそろ消えそうなので、私はこれで・・・

あゆむ うん

小梅、宗方の元へ

宗方にくつつく小梅。気付かず泣いている宗方

小梅

史菜さん、私のために泣いてくれてありがとうございます。史菜さんは、お母さんが一番私を大事にしてくれてたつて言ってましたけど、私は、史菜さんにも同じくらい大事にしてもらったと思つてます。

やせ細つて、目やにだらけで毛もガビガビで・・・どぶの中でただ鳴くことしかできなかつた私をドロドロになりながら家に連れて帰つてくれたのは史菜さんでしたね。あの時、史菜さんがいなければ私は死んでいたんですから・・・

この命は史菜さんに使えてよかつたんです。寒いときはお布団に入れてくれましたね。こつそり夕食のお刺身をくれましたね。

二人の時は沢山お話ししましたね。私のニヤーは、ちゃんと伝わりましたか？

ホントはもっと・・・もつとお話して・・・ずつと史菜と一緒にいたかつたよ・・・

でももう行くね。史菜を助けられてよかつた・・・さよなら

珠子たちに頭を下げ出て行く

あゆむ

行つちやつた・・・宗方さん泣かないでください、いま小梅ちゃんが――

大丈夫です。いま・・・微かですけども小梅が近くで話してくれているような声でしたんです。

きつと近くにいたんですよね。

うん。ありがとう

宗方

私も最後に会いたかつたな・・・あれ、そこにいた珠ちゃん手呼ばれてた人、どこへ行つたんですか？

あゆむ

え?!ここに――

珠子

よい。小梅がいなくなつて妖力への耐性が下がつたのじゃ。これが正常じゃ

あゆむ

そつか。あの・・珠ちゃんはちよつと出かけるつて

宗方

そつですか。お札を伝えたかつたのに。またここに来ますか?

瀧野川

んー、どうかな?気まぐれな人だからね

宗方

変わった感じの人でもんね。何ていうんだらう、座敷童みたいな人ですよね

あゆむ

ん?う、うん・・・そうね!

宗方

座敷童と出会つて幸せになれるんですよね?小梅と会えたのも座敷童のお導きかな?

珠子

我は何もしておらんぞ

瀧野川

じゃあ私も今日はこれで帰ります

宗方

え?もう少し上でお茶していけばいいじゃないの

瀧野川

いえ、帰つて小梅のお墓作つてあげたいんで。お母さんの横に

宗方

そつか、それは早い方がいいね

宗方出て行く

あゆむ

ああ・・・つかれた

瀧野川

まだ営業あるからね

あゆむ

ええ、今日はもう閉めちゃいませうよ

瀧野川

ダメだよ。今だつてお店空なんだから、早く戻るよ!

あゆむ

へーい

あゆむ出て行く

瀧野川

じゃ、与一さん、我々はこれで。

与一

あ、はい・・・・・つて待てえい!

瀧野川  
なに？どうしたの？

与一  
私の借りたここ、この人いるんですか？！

瀧野川  
うん。でも、人じゃないですからね

与一  
人じゃなくて何なんです？

瀧野川  
さつき宗方さん言ってたでしょ。座敷童。という事だから。じゃ。

与一  
じゃ。じゃないですよー

珠子  
おい、瀧野川

瀧野川  
はいはい

珠子  
前から言おうと思うとつたのだから、ここはちと湿気が多い。

瀧野川  
そりゃ地下だし、多少はしょうがないでしょ

珠子  
珠子、2階に行きたいなー

瀧野川  
え？ダメダメ。2階は今誰も入ってないから

珠子  
では良いではないか

瀧野川  
借りる人いなくなっちゃうよ

珠子  
じゃあ、出て行くか

瀧野川  
それもダメだつて。座敷童が出て行って家つて、燃えたりとかものすごい不幸になるらしいじゃないの

珠子  
じゃ、2階へ引つ越させよ

瀧野川  
えー・・・

珠子  
それから与一。お主はここに住むだけじゃ。道場はやめい

与一  
は？

珠子  
お主も人にあらざる者、人外よの？

与一  
へ・・・いや・・・

珠子  
身体は人の物じゃが、その体は死んでおる

与一  
な、何の事です？

珠子  
否定するか？我が気付かぬとでも？

与一  
いや・・・

珠子  
はるか昔の中国湖南省に死体を操り搬送する技術があったな。確かキョンシーといったか？



珠子

案ずるな。珠子はお主と一緒にいるぞ

与一

珠子と一緒にいるせいだよ

珠子

いきなり呼び捨てとは大胆な

与一

あんた初めから私の事呼び捨てでしょうよ！

珠子

親しみたつぶりだからな

与一

私はやりませんよ！探偵なんて

珠子

座敷童を舐めるなよ。幸せも運ぶが、ど不幸も渡せるぞ？

与一

脅迫じゃないですか

珠子

まあ、これも何かの縁じゃ。お主の悪いようにはせん。

瀧野川

で、探偵事務所の名前は

珠子

そうじゃな・・・人間の浮気調査や、ペット探しなどはやるつもりは無いからの・・・

与一

人にあらざる者専門の探偵、共同経営ならば「人外探偵結社」というのはどうであるのかの？

瀧野川

カッコいいねえ！

珠子

あんた何でもいいんでしょ

与一

珠子は幸甚の至りであるぞ♪あ、それから瀧野川、

あゆむ

まもなく店に子猫が迷い込んでくるはずじゃ。鯉節でも食わせた後に宗方にくれてやれえ、それつて・・・

(オフ)マスター！子猫拾ったー！

猫の鳴き声が響き暗転。

果たしてこれからこの探偵結社で何が起きるのか。。。

おしま